

Marie Laurencin 1929



らっぱをもって 1929年

マリー・ローランサン展

Exposition de Marie Laurencin

1992年1月5日(日) - 2月2日(日)

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで) 初日開館：午前11時 休館日：毎週月曜日

○主催：刈谷市・刈谷市教育委員会・中日新聞社 ○後援：愛知県教育委員会 ○協力：マリー・ローランサン美術館
○入場料：一般800円(600円)・学生500円(300円) ※()内は前売り及び20名以上の団体料金

愛知県刈谷市住吉町4-5 ☎(0566)23-1636

刈谷市美術館

JR・名鉄「刈谷駅」下車、南口から徒歩7分

Exposition de Marie Laurencin



自画像 1908年

詩情あふれるパリの華

マリー・ローランサン展

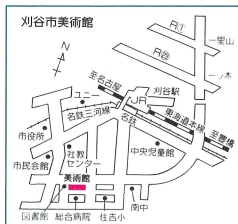
マリー・ローランサンと運命的な出逢いをした詩人アポリネールは、その著書『キュビズムの画家たち』(1913年)の中で、「マリー・ローランサン嬢は絵画という重要な芸術において、完全に女性的な美学を表現することに成功した」と述べています。

フォーヴィズムやキュビズムの台頭で、20世紀はじめのパリの芸術界は大きく揺れ動いていました。若い画学生だったマリー・ローランサンは、ブラック、ピカソ、ルソー、アポリネールなどの影響を受けますが、彼女の繊細な美意識は、やがて自由で独自の画風を開花させ、成功への階段を上ります。

ローランサンが描いたのは、パステルカラーのあくまでも女性的世界でした。あるときは妖精のようにあどけなく、そしてまた成熟した女性の愁いと妖しさをにじませる、抒情と官能のアラベスクです。私たちはその折々の絵画の中から語りかける、詩的ともいえる彼女の美学に魅せられます。

この展覧会では、長野県蓼科にあるマリー・ローランサン美術館のご協力により、その所蔵品の中から、彼女の青春期から円熟期にわたる油彩・水彩・デッサン・版画・挿絵本など147点をご紹介します。

この機会に、ローランサンの洗練された画業をご鑑賞頂きたいと思ます。



刈谷市美術館

■所在地
愛知県刈谷市住吉町4-5

TEL (0566)23-1636

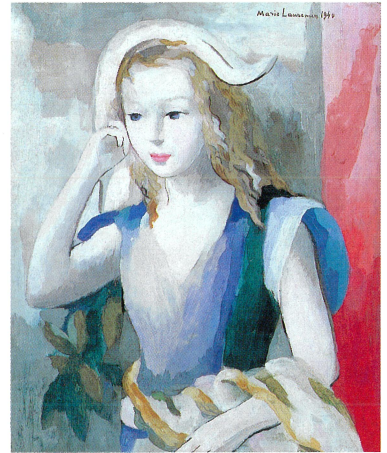
■交通案内

JR東海道本線・名鉄三河線

「刈谷駅」下車、南口から徒歩7分



森の中の径 1904-5年頃



女道化師 1940年



馬に乗っている4歳のマルセル 1944年頃



棕櫚のそばの乙女 1915年頃



三人の若い女 1953年頃